～小須戸町民海外視察研修報告～

先月号に続いて、研修の報告を掲載します。
（なお、この報告は、提出されたレポートの中から抜粋して掲載しています。）

石畳北の街角 落葉踏む

吉田マツさん（雁巻1）

ドイツ、スイスと廻りここでも日本人の安易な浪費を知りました。トイレットペーパーのサイズです。ドイツ製は幅100ミリ日本製は幅114ミリです。ドイツ品は白色度も低く重ね物のミシン目は140ミリ位、ミシン目のない物はグレーに近い程です。日本品はミシン目150ミリ～230ミリと様々で絵柄入り、芳香剤入りと、かなり贅沢させられている感じです。

日本品の12個入りを8袋でドイツの9袋分になります。例えば、社員150人の会社で1ヵ月180個使っているとして年間2160個です。ドイツ品で2430個になります。270個分は浪費されています。これは一般家庭の2～3世帯分はある計算になります。

ロールペーパーが何を基準に決められたか知りません。輸入材で紙を生産している国です。日本工業規格の改善の時期ではないでしょうか。たとえ再生紙であっても無駄な資源浪費はもったいないです。生産工程から排水浄化の技術を駆使し、水質汚染のない水を海に還元しなければなりません。ウッドチップ材は輸出国の緑破壊を起こしています。恥ずかしいです。

トイレットペーパー以外にも浪費させられているかもしれません。私達がもっと真剣に環境に優しい生活を考えていたならば消費税や保険負担に苦しまなくて済んだかも知れない。

是非、日本工業規格の見直しを望みます。豊かさが死語にならない為にも、企業の姿勢改革も必要だと思います。

良いチャンスに恵まれ有意義な研修をさせていただきました。

これを機にもっと多くを学びながら、直面する老齢福祉や介護ボランティアなど、地域に少しでも貢献できるよう努力いたす所存でおります。

小須戸行政は強いリーダーシップで

小林達喜さん（舟戸1）

フライブルク市のDSD廃棄物処理会社を見学して思ったことはリサイクルゴミ処理は、最終的に人戦術が必要のようです。集荷されてくる車からの廃棄物には、どうしても異質物が混入しているため、ベルトコンベアーに流し、人手で区分けしていました。職場は埃が立ちこめ大変なところでした。

スイスのチューリッヒ市も、フライブルク市同様環境が進んでいました。15年間チューリッヒ市に在住の日本人ガイドに聞いた話ですが、分別ゴミ実施当初、協力が得られず、糞味噌一緒に出す不心得者が後を絶たず、業を煮やした当局は、ゴミ袋の中身を調べ、何等かの手掛かりから犯人を見つけ万単位の罰金を徴収したとのことです。話半分としても、厳しい姿勢で臨んだことは間違いないようです。

今年、4月からリサイクル法が成立し、資源の再利用が明確に義務つけられますが、ゴミ発生もとの生産業者、輸入業者、流通業者の責任ある回収義務が曖昧で、急を要す自治体の自発的行動に委ねられた形になりました。処理問題を一方的に地方行政に押しつけている国及び企業の姿勢に対する地方の不満のうねりは、近く国会を動かし、発生者責任の立法が、必ず成立するものと信じています。

『資源は有限です』コスト理論だけでことを進め、未来を考えない日本式も大きく変わる時がきっときます。そして、リサイクル事業に手を出す業者が全国に多数出現し、遅ればせながらフライブルク市に近い処理方法になると思います。それまでの間、小須戸町は町民に切迫しているゴミの現状と今後の進め方を広報を通じ再三に亘ってPRし、協力が得られるように努め、場合によっては強い指導力を発揮してもらいたいものです。

環境都市フライブルクから学ぶこと（私のできること、していること）

佐藤弓槻子さん（矢代田6）

環境についての海外研修の事前学習で研修先のフライブルクがゴミ処理のために一家庭が年1万2千円の税金を納めていることを知った。恥ずかしいことに小須戸町はどうなのか知らなかった。広報「こすど」の5月号の町予算により1億2千万円近くを負担金として白根のクリーンセンターに収めていることを知った。

ゴミを減らして数%でも負担金を減らし、ゴミ以外の環境のために税金を使うことができるようにするのは、私たち町民ひとり、ひとりであるように思う。

私がやっていることを紹介すると、買い物には買い物袋持参で行くようにしている。袋を再利用すると20回で50円～100円引きの特典もある。ラップの量を減らすために蓋付きの容器を使う。洗剤等は詰め替え用を購入する等、誰でもちょっと気をつければできることだと思う。

町民海外研修に参加させていただいて環境について関心が強くなった。フライブルクの前に自分の住んでいる小須戸町やまわりのことを知らなければならない。町民が、町がゴミ処理のために予算をどれだけ使っているかを知れば、ゴミを減らし別の所に金を使いたいと思うに違いない。新津市では4月からゴミ処理が有料になった。以前の20%減になったそうだ。処理料金（ゴミ袋1枚20円～40円）である。スイスと比較すると1／4にもならない。小須戸町では、ゴミが20%減になれば負担金も20%減といかなくても数%は減るだろう。その数%減らした分「心豊かになる環境」作りに使ってほしいと思う。例えば、役場、公民館、学校、公園等に絵画、彫刻、陶芸などを置けたらいいと思う。

ゴミが変じて心が豊かになる環境つくりになる――近い将来実現することを願い確信して。

指定された有料のゴミ袋で出されたゴミ

「環境」を考える――小さな小さな一歩への旅――

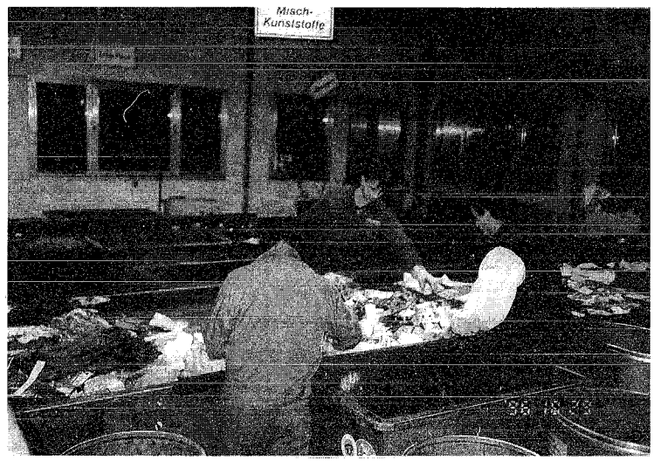
青木善明さん（新栄町1）

ドイツの街角では缶ジュース類の自動販売機はまったく目にしなかった。当然？空き缶も目に入らなかった。日本でのポイ捨て空き缶がすべて自販機のものとは限らないし、データもないだろうが、その半分以上はそれと見ていいだろう。自販機は日本中どこへいってもある。山の奥でもたんぼ道でも。市街地では10m、20m置きなんてのも珍しいことではない。外出先で気軽に手にし、なにげなくポイのお膳立てが整っているというわけだ。

ドイツにも紙コップ式の自販機はある。とはいっても使い捨て紙コップによる資源浪費を避けるためエコボタンが付いているものが普及しているという。このボタンを押すと飲み物だけが出てくるので、買い手は自分のコップを持参、紙コップが必要な場合は別に余分料金を払うといった具合。当然のことながらゴミ減量化にも直結することになる。

ふと思いだした。ひところ「割り箸は森林破壊の元凶の一つ。外出の際にも自分の箸を持ち歩き、食堂などでもそれを使うべきだ」との主張が声高に叫ばれ、友人の中にも実践していた人がいたが、今はどうしているだろうか。ついでに、ラーメン屋で割り箸を有料にしたらどうなる？少なくても自分の箸持参者には幾分でも値引してくれるだろうか、などと考えてしまった。恐らく一笑に付されそうだが、ドイツだったらどうだろうか。

ゴミ処理を有料化した自治体で不法投棄が増えて新たな問題になっているとの報道も多い。そうそう、ことは簡単ではないし、課題も多いだろうが、とにもかくにも一歩踏み出さなければ始まらないのは確かである。



様々なものが混ざった中から手作業で分ける